

# 中国語教育学会会報

第5号(通巻30号) 2003年4月9日発行

下記事務局へのご連絡は郵便で

中国語教育学会  
東京都世田谷区桜上水3-25-40  
日本大学文理学部中文研究室内  
郵便振替口座 00110-1-191152

## 第1回全国大会を去る3月27日(木)に開催 学会誌《中国語教育》創刊号も同日に発行

本会の第1回全国大会(研究報告会・会員総会)は去る3月27日(木)に日本大学文理学部百周年記念館を会場に、80名を越える参加者を得て開催された。研究報告を公募しての大会は、教育協議会として活動した期間を通じ、初めてのことであった。今回は、下記の6氏が持ち

時間30分でそれぞれ報告をされた。報告会に先立ち、来賓として出席の駐日中国大使館教育処の胡志平等書記官から祝辞とともに、中国政府の「対外漢語教学」に関する新しい施策や計画についてお話を伺った。総会後の懇親会にも50名を越える参加者があり、盛会であった。

### 中国語教育学会 第1回全国大会における研究報告について

報告会第1部 司会：平井和之(東京外国語大学)、加藤晴子(明海大学)

- ①広東語の音訳外来語の成立と使用について 白方直美(日本大学)
- ②中国語の声調教授法に対する一提案 野間 晃(北海道文教大学)
- ③時間副詞“剛”の意味と機能 森 宏子(流通科学大学)
- ④“向”再考—動詞と介詞の分類基準 高橋弥守彦(大東文化大学)

報告会第2部 司会：武信彰(獨協大学)

- ⑤日中両国教師による共同指導の試み 劉 嘉 恵(東亜学院)
- ⑥ソフトアプローチの中国語教育法 古川典代(大阪外国語大学)

### §§§ 2003年度の月例会開催案内(4、5月) §§§

月例会については、年間8回(4、5、6、7、9、10、11、12の各月)の開催を予定しています。会場は、多年お世話になって来た勸国際文化フォーラムの会議室借用を6月以降、段階的に各大学等に移す方針です。6月以降の例会会場提供のお申し出を歓迎いたします。ぜひご協力ください。

4月例会ご案内 日時 4月12日(土)午後2時～4時半  
人と題 輿水優(日本大学):中国語科教育法について

5月例会ご案内 日時 5月10日(土)午後2時～4時半  
ミニ・シンポジウム 発音指導をはじめ、音声教育に関する諸問題を参加者の持ち寄った意見や質問を中心に話し合う会にします(p.4も参照されたし)。助言者としてご出席いただく、孫玄齡氏(麗沢大学)に「発音上達法(仮題)」、松本洋子氏(外務省研修所)に「日本人学生に中国語の発音を教える際の小さな工夫」というテーマで、それぞれお話をさせていただきます。

会場 勸国際文化フォーラム(新宿駅西口、新宿第一生命ビル26F)会議室  
⇒会場、配布資料等の準備の都合上、事前の参加お申し込みを事務局あてにお願いします。

# 中国語教育学会第1回全国大会 会員総会 記録

中国語教育学会として初めての会員総会が全国大会当日の本年3月27日(木)に開催され、同日開かれた第2回理事会においてあらかじめ審議等の行われた、以下の各項につき議事が進められた。なお、総会の議長には、理事会の指名により大川完三郎氏(國學院大学)と守屋宏則氏(明治大学)が選出された。

## ☆ 現況報告

- 1) 2003年3月18日現在における会員数は303名。
- 2) 2003年3月18日における2002年度分の会費納入状況は納入済243名、未納者60名。
- 3) 会計監査・針谷壮一、桑野弘美の両氏により2002年度の支出について照合、幹事・島田亜実氏により収入状況について集計が行われた。

## ☆ 会計報告

今年度は発足初年度の関係で、理事会承認済みの「収支見込み」に基づいて会計が執行された。

### 〔収入〕

協議会からの繰り越し金	932,786(円)
教育学会年会費	1,213,000
協議会年会費(滞納分納入)	72,000
寄付金	16,000 (計4件)
次年度会費先払い	5,000
合計	2,238,786(円)

### 〔支出〕

通信費(切手・葉書等)	324,720(円)
幹事諸手当、バイト手当	130,000
理事会・事務局等会議費	196,657
例会講師・理事会等交通費	82,000
例会開催補助	15,000
印刷費(封筒、ファイル刊行)	79,400
事務用品費	16,757
合計	844,534(円)
収支差し引き残高	1,394,252(円)

◆02年度に支出予定の費目で、上記決算時に未払いとなっているもの。

学会誌印刷・編集作業費	250,000(円)
大会開催費	100,000
合計	350,000(円)

◆◆事務局だより◆◆ 学会誌《中国語教育》発行に向け、事務局は忙しい日々を送った。というのも、印刷費の低減をはかるため、すべての原稿をフロッピーディスクに収めた上で印刷所に回そうとしたのだが、これが大仕事であった。もともと、寄稿はすべてフロッピーディスクで届いているのだが、字詰め、小見出しのつけ方等々の統一作業が大変であった。それだけ手間をかけたのに、出来上がって見ると、日本語の部分と中国語の部分で文字の大きさの差が生じたほか、あちこち誌面の見苦しさが気になる。その点をお許しいただければ、経費は事務局の作業を含めても20万円を下回することは確実。次号は執筆要領を提示し、掲載論文数も増やしたい。

☆ 2003年度予算案（02年度の実績を基に立案）

〔収入〕

教育学会年会費	1,200,000(円)
学会誌売上げ	40,000
繰り越し金	1,394,252
合計	2,634,252(円)

〔支出〕

前年度未払い金(概算)	350,000(円)	
通信費(切手・葉書等)	280,000	⇒350名×会報5回、例会通知4回、会誌郵送1回
幹事諸手当	120,000	
理事会・事務局等会議費	180,000	
例会講師・理事会等交通費	80,000	
例会開催補助	40,000	⇒5,000円×8回
事務用品費	30,000	
学会誌印刷・編集費	300,000	
大会開催費	100,000※	
合計	1,480,000(円)	

※大会開催費は、02年度については理事会の承認によって支出することとなったが、03年度については当初の議案には計上せず、総会の審議を経て、原案を修正追加する形式をとった。

上記の予算案の支出合計から前年度未払い金を除くと、03年度分の実質支出は1,130,000円となり、前年度総支出は1,194,534円となる。

なお、昨年11月の理事会に提示した収支見込みでは年間予算規模を110～120万円としていた。

☆ 学会誌発行の件

学会誌《中国語教育》創刊号は、03年1月15日締め切りで原稿を公募し、8篇の論文・報告等が寄せられた。複数の理事による査読の結果、5篇を選び、理事各位に依頼した特集記事を加え、大会当日の発行に間に合わせることができた(関連記事をp.2囲みでご覧ください)。会員外の購入希望者への頒価については理事会で2,000円という案が出たが、なお事務局で検討している。理事会では、創刊号であるため、国内外の寄贈先に広く送付してPRをはかることが議せられた。

☆ 例会の件

学会誌創刊号p.87の「学会1年の歩み」に掲載した通り、年間8回の月例会開催を維持したいが、02年度は協議会から学会への移行作業等のため、6回開催にとどまった。本号p.1の例会案内にあるように、03年6月以降は各大学等に会場提供をお願いしなければならない。ご協力を期待する。

☆ 今後の学会運営について

会則により、04年春に開催予定の次回大会では、役員の変更がある。事務局の持ち回りも会則に定められている。今年度中にこれら今後の学会運営に関する諸問題について議論が必要であり、実質的な決定に持ち込まなければならない。次回大会の会場当番校についても同様である。

☆ 名簿発行について

会員のなかに、会員名簿の発行を望む声があり、理事会で議論した結果、時節柄プライバシー保護の立場から発行については慎重に、という意見が強く、総会ではその旨を報告するにとどめた。事務局では、大会参加者に当日配布した出欠調査用名簿を欠席者にも送付する予定でいる。

## 第1回全国大会 点描 (リサーチ・レポート特集その1)

今夏、日本から高校の現職中国語教員が20名、中国に招かれて1カ月間の研修を行うという。これまでこの種の企画は、往復のいわゆる国際旅費は自弁であったが、これは旅費も含め、すべての経費が中国側負担であるという。これ以外にも、これまで考えられなかったような中国政府のプログラムがあるそうだ。今回の大会で祝辞を述べてくださった駐日中国大使館教育処の胡志平氏は、中国政府教育部の“中国国家对外汉语教学领导小组办公室”による、「対外漢語教学」に関する、それらのプログラムについても大会の席上で紹介された。そのうち、研究者の短期訪問計画と、優秀教材コンクールは画期的なものと感じる。前者は言語・文化・歴史・法律・政治・経済等の分野で助教授以上あるいは博士の学位を有し、3年以上の研究歴がある者を対象に2~4週間、最大3カ月以内、中国で研究に従事できるという。毎月1万元支給と、6千元支給があり、往復旅費も医療保険も中国側負担である。義務として終了後1カ月内のレポートの提出がある。後者は教科書(音声教材含む)や参考書が対象で、国内国外を問わず7月末に締め切り、8月に選考して優れた教材に、1等5万元、2等3万元…と賞金が出るという。詳細は下記の所か、大使館教育処に問い合わせるとよい。



地址: 北京中关村南大街乙56号方圆大厦17层 100044  
电话: 86-10-88026128/29 传真: 86-10-88026129  
电子信箱: jiaoliu@hanban.edu.cn  
网址: www.hanban.edu.cn

## 第1回全国大会 点描 (リサーチ・レポート特集その2)

今回の大会と直接の関係はないが、大会翌日の3月28日(金)に同じ会場で、日本大学文理学部と国立台湾師範大学との交流協定に基づくシンポジウムが開催された。台湾師範大学からは華語文教学研究(大学院修士課程)の信世昌、曾金金、英文系の陳純音、計3名の教授が来日され、「第二言語の習得に関する研究」を主題として学術報告が行われた。日本側は、まず主催校の奥水優から開催の趣旨説明があり、日本の中国語教育では第二言語の習得に関する理論的研究が欠けていることの指摘があり、つづいて田中ゆかり(日本語学)、張麗群(日中言語対照)、平井和之(中国語学)らが学術報告を行った。このシンポジウムについては本会の会員にも日本大学文理学部からご案内を差し上げたので、2日連続で会場に来られた方も多く、合計50名を越える参加者があった。台湾から来訪の3教授は前日の本会全国大会に午後から来訪され、懇親会にも参加して会員有志と交流が出来た。なお、当初の予定では華語文教学研究前所長の鄧守信教授がご出張先の香港から来られることになっていて、レジュメもいただいていたが、急のご用で来日されなかった。そのため信世昌現所長が、同研究所の概況と、同大学の著名な「国語教学中心」について紹介をされた。いずれも本会が協議会であったころ、会報紙上のリサーチ・レポートで取り上げたことがあり、ここでは省略する。

### 新年度会費納入について

昨02年度は会費納入についてご協力ありがとうございました。03年度の会費は次号会報に振り込み用紙を同封しますので、その際はよろしく願いいたします。なお、旧協議会の未納会費もご請求いたします。

### 参加者発言型の例会について

今後、月例会では参加者が積極的に発言できる方式を多く取り入れたいと思います。あらかじめテーマを提示しますので、ご質問やご意見を用意してください。5月10日の分は、申込み葉書にお書き添えくだされば幸甚です。